ＮＯ	教科	科目名	単位数	必修・選択の別
２０１	国語	言語文化	２	必履修
開講年次	**選択群**	**系列**	**使用教科書・教材**	
２	なし	なし	大修館書店　新編　言語文化	

目標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元・作品名	学習内容	到達度目標
前期	季節の言葉と出会う （ことばと出会う）	・言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉の役割を理解する。 ・日常使っている言葉を見つめ直す。	・言葉には、文化の継承、発展、想像を支える働きがあることを理解できる。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえることができる。 ・言葉についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日常使っている言葉を見つめ直すことができる。
	漢字と仮名の使い分け （ことばと出会う）	・日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。 ・表記について調べたり考えたりする。	・我が国の言語文化やその背景について理解を深め、文章の中で使うことができる。 ・文章の内容や構成を的確にとらえることができる。 ・日本語の表記の特色や独自性について学習した内容をもとに、自らの言語感覚を磨くことができる。
	いろは歌　古文冒頭選 （古文に親しむ）	・古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ・受け継がれてきた古文を音読する。	・時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解できる。 ・古文を読むことに興味を持ち、積極的に音読したり、響きやリズムを味わったりできる。
	訓読のきまり 格言 （漢文に親しむ）	・漢文の訓読のきまりについて学ぶ。 ・普段使われている漢語について学ぶ。	・訓読のきまり、日本語との語順の違いを理解し、例文を正確に音読したり、内容を理解したりできる。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの見方、考え方を深めることができる。
後期	とんかつ （表現を味わう）	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や作品の構造を理解する。	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取ることができる。 ・語り手の役割や、登場人物に対する印象の変化、場面の展開、作品の構造について理解できる。
	十二の「子」文字 （古文に親しむ）	・誰の発言かに注意して物語の内容を読み取る。 ・古典特有の表現や漢字の読みの多様性を理解する。	・会話文がそれぞれ誰の発言なのか理解できる。 ・当時の貴族にとって漢文がどのようなものであったかを理解できる。 ・「子」に多様な読みがあること、十二支、多様な読みがある他の漢字について理解できる。
	羅生門 羅生門の世界 （物語を受け継ぐ）	・小説の構成をとらえ､登場人物の心情の変化を読み取る。 ・もとになった古典作品との比較を通して内容の解釈を深める。	・場面の展開を把握し、場面ごとに変化する登場人物の心情を読み取ることができる。 ・文章中の比喩表現について理解できる。 ・「羅生門」と「今昔物語集」を比較して、両者の相違点や表現効果について理解できる。
	春のうた/夏のうた/秋のうた/冬のうた （詩歌の調べ）	・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。 ・作者や作品について調べる。	・枕詞などの修辞技法や古典特有の表現などについて理解し、作品を読み味わうことができる。 ・学習した詩歌を暗唱したり、作者や作品について調べたりすることで、積極的に言語文化への理解を深めることができる。

取得可能な検定や資格

漢字検定　硬筆書写検定